債券賣買
金融
質物一般 多田井商店
平市大工町
電話五九一

電話六三三番
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス
平驛前
阿部石炭商店
電話三七七番

（第三種郵便物認可 大正三年八月七日）
昭和十二年十月廿二日 THE IWAKIJIHO （水曜日） （第七千百五號）（一）

夕刊 磐城時報

廿一日

編輯兼發行人 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社

一部金貳錢 一ケ月金拾錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

支那事變發生で犯罪著しく減る

平署三年間の統計

支那事變による國民の精神總動員は豫期以上の好成績を納めてゐることは同事件發生後に於て各種犯罪發生並に檢擧件數が著しく減じてゐることによつて明白であるが、平警察署調査によると左の如くである（數字は何れも十一月末現在）

（扞孤内は檢擧件數）

殺人	十年	十一年	十二年	發生	一
				檢擧	六（三）
放火	四（四）	一（一）	一（一）	強盜	三（三）

窃盜	一八三三（一八九七）	一〇三三（九八八）	九二〇（九二〇）	詐欺	三三四（六二三）
横領	三三四（二四四）	七三六（五五四）	三三三（四三三）	賭博	四二（四三）
	一一八（一一八）	四七（四七）	傷害	六五（六五）	八五（八四）
	七四（七四）	其他	八二六（八四八）	八六一（七七三）	四四〇（四三七）
計	三六〇九（三七三）	三三七六（三七四五）	二〇一八（二〇五二）		

尚ほ檢事局に送致した件數も左の如く激減してゐる。

	件數	人員
十年	一〇五六	一三三二
十一年	九一三	一二七三
十二年	七二〇	三七〇

申告が遲れたため捜索に苦んだ事實

防犯座談會に於ける平警察署の希望

平警察署の防犯座談會は二十日午後一時から管下各炭礦、飲食店、接客業者、各學校長、各種團体代表者等二百余名參集平署會議室に開催したが、座談會要目は

一、强窃盜
强盜、忍込、掏模、置引、搔拂、屋外窃盜、特殊窃盜、其他
一、詐欺
釣錢詐欺、籠抜、爲替變造詐欺、其他
一、恐喝、脅迫、賭博等の詳細に亘つて八卷署長菊地部長刑事其他から防犯に關する注意があり、何れの犯罪によらず申告が遲れると檢擧に苦勞をするばかりでなく逮捕が困難となるおそれがある旨を注意し、好例として過般の内郷村に於ける千八百圓の詐欺事件を左の如く説明し注意を促した。

△千八百圓の詐欺事件の大要

犯人内郷村山田三郎、犬山五郎（假名）の兩名は共謀の上朝鮮古物商高山仙吉、長田清一の兩名に磐城郡内郷村ティラー、ポンプ其他電機類約一萬貫の拂下方を周旋をなすと僞り昭和十二年九月二十二日綴喜郡大江倉堂に同人等を招致し同日午後二時拂下代金千八百圓を會社に拂込んで來ると稱して金員を受取り逃走す

右事件は發生し犯人が逃走した午後二時から六時間を經た午後八時被害者が漸やくそれと氣がつき綴驛前部長派出所に届け出でた、その申告が非常に遲れてゐたため平署では調査に時間を要し

犯人の目星をつけ逃走經路を發見して追跡を開始したのは二十八時間を經過した二十三日午後七時であつた

犯人等は逃走後直ちに綴驛前薄業自動車により四倉町に至り鈴木自動車に乘り換へ久濱町では更に常磐自動車に換へ龍田驛に至り二十二日午後五時三十九分發列車で原町驛の切符を買ひ（改札係に原町發上り急行列車の時間を聞く）原町に於て洋服に變裝し自動車で岩沼に向つた（平署追跡刑事がこの事實を知つたのは事件發生後實に八十三時間を經過した二十四日午前三時であつた）犯人等は自動車運轉手その他に郡山に向ふと言ひふらしたが仙臺に乘り込んだもののとして仙臺に向ひ同氏玉造旅館に僞名投宿の事實を探知したのは犯人が同旅館から逃走した後六時間を經た二十四日午後二時であつた。かくして犯人の一味大山五郎は二十五日夜逮捕されたが、申告が早ければかゝる手間を要せず通信機關により直ちに逮捕し得た事と思ふ。

縣會で決定した石城の復舊工事

縣會で決定した災害復舊土木事業の工事施行個所は、中石城郡關係の分左の通りである。

△護岸根圍　鮫川植田町字下御堂▽小玉川赤井村西小川

△道路工事
上小川高崎（土留）三阪村上三阪字綱木、晴渠）上遠野村染山字田澤擊（土留）磐崎村上湯長谷字湯臺（同）湯本町笠井（同）三阪村上三阪字山神（崩落土取除）

△橋梁工事　（國庫補助）
平市平窪中平橋（木造土橋）鹿島村上藏持字寺内橋（同）箕輪村高野字銅目木橋（同）田人村旅人字栗木橋（同）荷路夫村水界橋（同）

△橋梁工事　（縣費關係）
鹿島村上藏持字寺内橋（假橋）箕輪村高野字銅木橋（同）荷路夫村水界橋（同）田人村入旅人字栗木橋（同）

△河川工事　（國庫補助）
鮫川植田町下御[illegible]（護岸根岸）小玉川赤井村西小川平久目（同）

補充兵の一期教育終る

平市の未教育補充兵教育は過般來毎週土曜日に第一校で行つて來たが時局柄參加二百名に上り十二月末で第一期教育が終るので更に第二期として明年一月から三月まで引續き行はれる事になつた。

上小川組五十圓献金

上小川消防組では國有林を拂下げて得た利益金五十圓を國防費に献金した。

經濟更生樹立計劃會

石城、双葉、相馬三郡に於ける縣主催の經濟更生樹立計劃會は二十七日午前十時から双葉郡團体事務所に縣會で決定した

○地に上陸以來早くも二十日を過ぎました。當地は江浦江を隔てゝ○○地の對岸、日の出、日沒約一時間遲れてゐる外、内地と氣候殆んど變りなく、日中は暖かく時折霜が深くなる位が相違のうちです、灯が流れに映する夜景など平和の奏でる戰地にあるの感れしめる有樣です　捕虜千余の警備をなしてゐますが、統制とれ從順に働いてゐるます、流石に忘國民行動緩漫規律無く且つ怠慢感念皆無なるには唖然、戰します。傍らで大小便をしてゐる川の水を飲んでゐる位は日常茶飯事、土だらけ不潔ない殘飯を最上ゝ御馳走と舌つゞみをうつてゐるにはあきれて物が言へません。これでは敗戰國は當然の歸結と考へずには居られない、今のところ危險なく殊に歳末でも債鬼の訪れる心配なく悠々と昭和十三年を迎へ出來る事とホットしてゐます。折角御健闘を祈りします。

チャン語の三ツも御土産に覺えて凱旋します。

改心すると三圓献金

明治生命磐城代理店 市崎與三郎

戰地から　大竹庫

埃拂と舞踊

田中絹代嬢

松竹映畫俳優の人氣者田中絹代嬢は二十一日來平、午後五時から松竹映畫館世界館で挨拶をなした上舞踊を披露し人氣を博した。

石城電話番號に就いて

一、本社が仙臺遞信局の認可の下に昭和七年以來刊行しつゝある『石城電話番號便覽』は勿論來年度に於ても出版致します

然るに東北新報の佐藤陽孝君は本社が右出版に對し中止したるが如き虚構の言辭を布れ廻はして居るやに聞いて居る

又佐藤君は電話簿刊行について認可指令に接したと稱し廣告加入募集に奔走して居るが遞信局としては同一のものを一名以外に認可する筈なく無論平局としても同一のものを手續を採る如き無定見なことは致すまいと思ひます

右の樣な事情でありますから虚構言辭に迷はされぬ樣御願ひ致します

昭和十二年十二月

平新報社
山野邊庄吉

福島縣平市
正札堂
電話（營業部專用一〇番 一般用二七番）
振替東京一九七五五番

洋服店 正
本町三丁目（梅原米穀店隣）
電話四三六番
洋服は今が買時です
◎お洋服は今が買時です
生地は優秀、柄は流行、而も値段は超安値……
此の三柏子揃つた弊店の勉强振りをおためしを
然も仕立はお誂へと同樣、寸法は特別に各種取揃へ……必ず御滿足の戴ける當店自慢の大サー
で御座いますれば何卒倍舊の御愛顧の程偏へに懇願申上げます

募集廣告
男女工數名
右至急募集す
委細面談
加納活版所

飲んで治る腫物の妙藥
八方膏
水野藥局
平市一。電六九九

◎派出婦數名募集！（東京）
一年令　十八年ヨリ四十五年マデノ婦人素人ニテ可
一寄宿　設備完全
一日收壹圓以上（食費付）
委細は（平市城山三ノ九一二武田安左工門方）（平市古鍛冶町三〇　武田安太郎方）にお尋ね下さい。
公認 立花派出婦人會
會主 立花むめ
東京市荏原區小山町四五六
電話荏原六・三八七番

御得意様へ御禮に！

パーマネントウエーブは！

今や…世界的流行であります

お値段（四圓 全部 三圓 普通）

◆時間の經濟と能率增進
◆時代の要求　パーマネント
◆今が絶好のチャンス

現狀維持では時代に取殘されませう。

御婚禮御着付
和洋結髮
オリン美顔術
美爪術
白赤毛染

銃後をゞる御婦人方への大サービスに最新の美容法を研究しその奥義を修得致して參りました。

水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電六七八
自宅 電五二五

魚清自慢の
なべ料理 始めました
鳥なべ・ちりなべ
よせなべ・ねぎまなべ
かきなべ・はもなべ
あんこなべ
出前も迅速に致します
平三、警察署隣り
魚清食堂
電話六三三番

債券 賣買
金融
質物一般 多田井商店
平市大工町
電話五九二

モートル
變壓器 修理販賣
平月見町
佐藤鐵工所
（電話三六二）
◎事務員募集可成簿記に經驗あるもの

忘年會
新年會には是非
小瀧
常磐線湯本驛
鐵道指定旅館
割烹
小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

一、煉炭
一、豆炭 各種 特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス
平驛前
阿部石炭商店
電話三十七番

夕刊
磐城時報
廿二日
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷人 岡田弘成
印刷所 磐城平市鍛冶町十四
發行所 磐城時報社
印刷所 磐城平市鍛冶町十四
加納活版所
一部金貳錢 一ヶ月金廿錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

日本無産黨關係者

△馬目春雄（二九）東京府下北多摩郡砂川村清内生れ、好間村北好間字杉平日曹小田坑夫。

△古川磐六（三一）福島市清明町二七生れ、平市北白銀町四二東北商工時報發行人。

△佐藤清長（三二）平市下河原町平活版職工

△淺野新一（二八）大分縣南海郡佐伯町三ノ

シモヤケ家傳藥

是までシモヤケは駄かくなければ治らぬものと諦めて居つたのが一回二三回の御使用でクヅれたシモヤケも忘れた樣に治ります。

現今の塗藥と異り罨法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものでありません、又クヅレタシモヤケに塗藥では塗布と同時に痛みを感じたりカユミを增したり致します、此藥は無刺戟の中に心地良い罨法により皮下の血行を良くし幼き御子樣方にも宜ばれて如何にクヅレタシでも完全に全治致す事を保證致します。是非一度御試し下さい。

東京市丸井邦寶堂
福島 茨城 兩縣特約販賣 伊藤石炭店
平市一丁目 電話三四九番

和洋銅鐵金物問屋
金屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

移轉お知らせ
毎度御贔負下され深謝仕ります、弊店儀今回……
◎平市三丁目本通り目抜の場所に移轉致しました、更に御客樣本位に勵む覺悟で御座いますれば何卒倍舊の御聲援の程偏へに懇願申上げます
本町三丁目（梅原米穀店隣）
洋服店 正札堂
電話四三六番
◎お洋服は今が買時です
生地は優秀、柄は流行、而も値段は超安値……此の三柏子揃つた弊店の勉强振りをおためしを然も仕立はお誂へと同樣、寸法は特別に各種取揃へ……必ず御滿足の戴ける當店自慢の大サー

佐藤氏の製材工場
赤井驛前に移轉
市内田町の木工場地帶に於ける今後復舊問題に關しては市將來の保安上多大の關心を以て凝視されてゐたが

て下さい
とて母の寫眞を本公袋に入れ與へ病床から伴の首途を激勵したのであつた。

時から開き左の諸件を附議する。
一、小學校增築起債變更
二、預金部借入金元利償還期日變更
三、市道認定に關する協定
四、水道使用料契約繼續
五、區長代理者辭任認定
六、區長代理者推薦

工事場からダイナマイト一本、雷管一本、導火線五寸餘を持ち出し廿五午後六時頃植田町の病院にゐる妹のため（一七）の荷物を送り出した後九時三十五分頃自宅裏で庭に立つたまゝ、復に火藥を抱へ

いと自殺を覺悟し

明治生命 磐城代理店 山崎甚三郎

醬油と味噌
合同醸造屋
福島縣平市
電話（營業部專用一〇番 一般用二七番）
振替東京一九七五五番

苦膿症
根切藥 快鼻湯
本劑は幾多の藥劑ありと雖他藥の及ばざる良藥で、左の病症の方は一時も早く服用され快癒されん事を御奬め致します
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症
頭痛、肥厚性鼻炎に靈効あり。
◎其他鼻骨變曲症並に中耳炎は偉大なる神効ありと賞讃されて居ります
磐城國平市一丁目
快鼻湯製造元 水野藥局
責任製劑者 藥劑師 水野清一
電話六九九番

花柳病科
泌尿器科
皮膚科 專門
診療時間 午前八時ヨリ 午後九時マデ
平市田町（電話六九一）
入院隨意 江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎